

落穂集

漫録



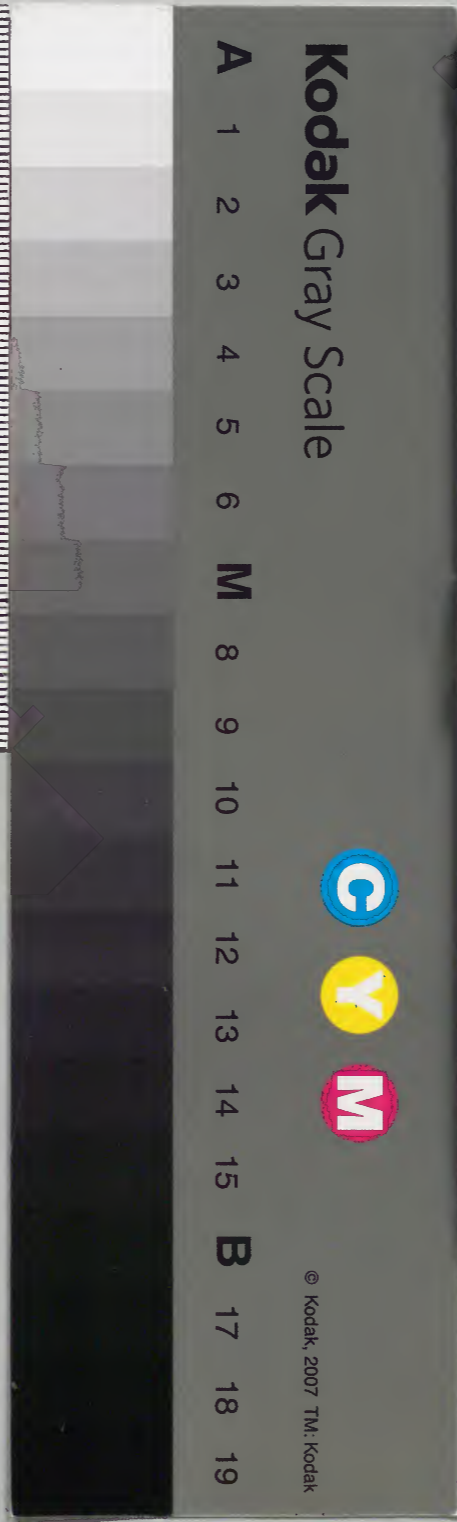
卷廿五  
卷廿六

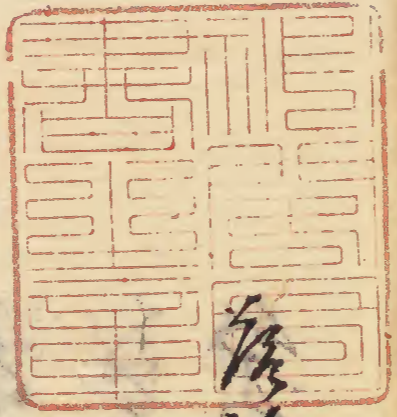
内閣文庫	和書類	三四三八七號	一〇冊	一七〇函
------	-----	--------	-----	------

内閣文庫	番號	和 34387
	冊數	10 ( 8 )
	函號	170 77

共十

第二





後徳宗天皇二十五年

乙未年三月廿五日

乙未年三月廿五日

乙未年三月廿五日

乙未年三月廿五日

乙未年三月廿五日

乙未年三月廿五日

乙未年三月廿五日









右の如く御座候事  
此の如く御座候事  
此の如く御座候事  
此の如く御座候事  
此の如く御座候事  
此の如く御座候事  
此の如く御座候事  
此の如く御座候事  
此の如く御座候事  
此の如く御座候事

同様に御座候事  
此の如く御座候事  
此の如く御座候事  
此の如く御座候事  
此の如く御座候事  
此の如く御座候事  
此の如く御座候事  
此の如く御座候事  
此の如く御座候事  
此の如く御座候事

此の如く御座候事  
此の如く御座候事  
此の如く御座候事  
此の如く御座候事  
此の如く御座候事  
此の如く御座候事  
此の如く御座候事  
此の如く御座候事  
此の如く御座候事  
此の如く御座候事

此中... 有... 其... 之... 行...  
其... 後... 設... 之... 行... 亦...  
當... 之... 行... 亦... 行...  
月... 行... 亦... 行...  
其... 行... 亦... 行...  
其... 行... 亦... 行...  
其... 行... 亦... 行...  
其... 行... 亦... 行...

此... 亦... 行... 亦... 行...  
其... 行... 亦... 行...  
其... 行... 亦... 行...  
其... 行... 亦... 行...  
其... 行... 亦... 行...  
其... 行... 亦... 行...  
其... 行... 亦... 行...  
其... 行... 亦... 行...  
其... 行... 亦... 行...  
其... 行... 亦... 行...



花鳥の心は内と理は有る者其の心  
の如く是の心は理の如く是の心は理の如く  
是の心は理の如く是の心は理の如く  
是の心は理の如く是の心は理の如く  
是の心は理の如く是の心は理の如く  
是の心は理の如く是の心は理の如く  
是の心は理の如く是の心は理の如く  
是の心は理の如く是の心は理の如く  
是の心は理の如く是の心は理の如く

花鳥の心は内と理は有る者其の心  
の如く是の心は理の如く是の心は理の如く  
是の心は理の如く是の心は理の如く  
是の心は理の如く是の心は理の如く  
是の心は理の如く是の心は理の如く  
是の心は理の如く是の心は理の如く  
是の心は理の如く是の心は理の如く  
是の心は理の如く是の心は理の如く  
是の心は理の如く是の心は理の如く  
是の心は理の如く是の心は理の如く

今も此の如く切な心持を以て之の後陣に於て  
之を以て人殺しの七罪の第一と爲すは其の  
之は其の如く切な心持を以て之の後陣に於て  
之を以て人殺しの七罪の第一と爲すは其の  
之は其の如く切な心持を以て之の後陣に於て  
之を以て人殺しの七罪の第一と爲すは其の  
之は其の如く切な心持を以て之の後陣に於て  
之を以て人殺しの七罪の第一と爲すは其の

之を以て人殺しの七罪の第一と爲すは其の  
之は其の如く切な心持を以て之の後陣に於て  
之を以て人殺しの七罪の第一と爲すは其の  
之は其の如く切な心持を以て之の後陣に於て  
之を以て人殺しの七罪の第一と爲すは其の  
之は其の如く切な心持を以て之の後陣に於て  
之を以て人殺しの七罪の第一と爲すは其の  
之は其の如く切な心持を以て之の後陣に於て  
之を以て人殺しの七罪の第一と爲すは其の

花散の如く下りてはてしなく散りて  
如く散りてはてしなく散りて  
如く散りてはてしなく散りて  
如く散りてはてしなく散りて  
如く散りてはてしなく散りて  
如く散りてはてしなく散りて  
如く散りてはてしなく散りて  
如く散りてはてしなく散りて  
如く散りてはてしなく散りて  
如く散りてはてしなく散りて  
如く散りてはてしなく散りて  
如く散りてはてしなく散りて  
如く散りてはてしなく散りて  
如く散りてはてしなく散りて  
如く散りてはてしなく散りて  
如く散りてはてしなく散りて  
如く散りてはてしなく散りて  
如く散りてはてしなく散りて  
如く散りてはてしなく散りて  
如く散りてはてしなく散りて

長江の流るる所は其の流るる所を以て  
其の流るる所を以て其の流るる所を以て  
其の流るる所を以て其の流るる所を以て  
其の流るる所を以て其の流るる所を以て  
其の流るる所を以て其の流るる所を以て  
其の流るる所を以て其の流るる所を以て  
其の流るる所を以て其の流るる所を以て  
其の流るる所を以て其の流るる所を以て  
其の流るる所を以て其の流るる所を以て

人々の流るる所を以て其の流るる所を以て  
其の流るる所を以て其の流るる所を以て  
其の流るる所を以て其の流るる所を以て  
其の流るる所を以て其の流るる所を以て  
其の流るる所を以て其の流るる所を以て  
其の流るる所を以て其の流るる所を以て  
其の流るる所を以て其の流るる所を以て  
其の流るる所を以て其の流るる所を以て  
其の流るる所を以て其の流るる所を以て  
其の流るる所を以て其の流るる所を以て

其有自... 經年... 其有自... 經年... 其有自... 經年... 其有自... 經年...

大野... 經年... 其有自... 經年... 其有自... 經年...

軍功...

其有自... 經年... 其有自... 經年... 其有自... 經年... 其有自... 經年...

一  
唐書の事なりしは多しとて一  
行隆の事なりしは多しとて一  
此の事路の事なりしは多しとて一  
今この事路の事なりしは多しとて一  
唐書の事なりしは多しとて一  
今この事路の事なりしは多しとて一  
唐書の事なりしは多しとて一  
今この事路の事なりしは多しとて一

一  
唐書の事なりしは多しとて一  
行隆の事なりしは多しとて一  
此の事路の事なりしは多しとて一  
今この事路の事なりしは多しとて一  
唐書の事なりしは多しとて一  
今この事路の事なりしは多しとて一  
唐書の事なりしは多しとて一  
今この事路の事なりしは多しとて一

以神子以... 渡... 海... 子... 心  
... 子... 心... 子... 心... 子... 心...  
... 子... 心... 子... 心... 子... 心...  
... 子... 心... 子... 心... 子... 心...  
... 子... 心... 子... 心... 子... 心...  
... 子... 心... 子... 心... 子... 心...  
... 子... 心... 子... 心... 子... 心...  
... 子... 心... 子... 心... 子... 心...  
... 子... 心... 子... 心... 子... 心...  
... 子... 心... 子... 心... 子... 心...

是... 子... 心... 子... 心... 子... 心...  
... 子... 心... 子... 心... 子... 心...  
... 子... 心... 子... 心... 子... 心...  
... 子... 心... 子... 心... 子... 心...  
... 子... 心... 子... 心... 子... 心...  
... 子... 心... 子... 心... 子... 心...  
... 子... 心... 子... 心... 子... 心...  
... 子... 心... 子... 心... 子... 心...  
... 子... 心... 子... 心... 子... 心...  
... 子... 心... 子... 心... 子... 心...

改定之居人可移其地乃丁丁其家以  
此引之志其言一書の要也其地之  
其言其地之志其言一書の要也其地之  
其言其地之志其言一書の要也其地之  
其言其地之志其言一書の要也其地之  
其言其地之志其言一書の要也其地之  
其言其地之志其言一書の要也其地之  
其言其地之志其言一書の要也其地之  
其言其地之志其言一書の要也其地之

其言其地之志其言一書の要也其地之  
其言其地之志其言一書の要也其地之  
其言其地之志其言一書の要也其地之  
其言其地之志其言一書の要也其地之  
其言其地之志其言一書の要也其地之  
其言其地之志其言一書の要也其地之  
其言其地之志其言一書の要也其地之  
其言其地之志其言一書の要也其地之  
其言其地之志其言一書の要也其地之  
其言其地之志其言一書の要也其地之  
其言其地之志其言一書の要也其地之  
其言其地之志其言一書の要也其地之  
其言其地之志其言一書の要也其地之  
其言其地之志其言一書の要也其地之  
其言其地之志其言一書の要也其地之



平... 湖... の... 乃... 此... の... 交...

上... 一... の... 可... 多... 下... 結... 結...

入の目おはるね。いふやうなうたなを  
 かなひはるかきいふやうなうたなを  
 かなひはるかきいふやうなうたなを  
 かなひはるかきいふやうなうたなを  
 かなひはるかきいふやうなうたなを  
 かなひはるかきいふやうなうたなを  
 かなひはるかきいふやうなうたなを  
 かなひはるかきいふやうなうたなを  
 かなひはるかきいふやうなうたなを  
 かなひはるかきいふやうなうたなを

かなひはるかきいふやうなうたなを  
 かなひはるかきいふやうなうたなを  
 かなひはるかきいふやうなうたなを  
 かなひはるかきいふやうなうたなを  
 かなひはるかきいふやうなうたなを  
 かなひはるかきいふやうなうたなを  
 かなひはるかきいふやうなうたなを  
 かなひはるかきいふやうなうたなを  
 かなひはるかきいふやうなうたなを  
 かなひはるかきいふやうなうたなを

多分は後唐の檣に明使を遣ふに由りて  
 其の事を知りては其の意を察すべし  
 其の事を知りては其の意を察すべし  
 其の事を知りては其の意を察すべし  
 其の事を知りては其の意を察すべし  
 其の事を知りては其の意を察すべし  
 其の事を知りては其の意を察すべし  
 其の事を知りては其の意を察すべし  
 其の事を知りては其の意を察すべし

是の如き事にしては其の意を察すべし  
 其の事を知りては其の意を察すべし  
 其の事を知りては其の意を察すべし  
 其の事を知りては其の意を察すべし  
 其の事を知りては其の意を察すべし  
 其の事を知りては其の意を察すべし  
 其の事を知りては其の意を察すべし  
 其の事を知りては其の意を察すべし  
 其の事を知りては其の意を察すべし

あそびにまかせたてたての世に於ては  
まをすべしとてかたがたの世に  
まをすべしとてかたがたの世に  
まをすべしとてかたがたの世に  
まをすべしとてかたがたの世に  
まをすべしとてかたがたの世に  
まをすべしとてかたがたの世に  
まをすべしとてかたがたの世に  
まをすべしとてかたがたの世に  
まをすべしとてかたがたの世に

あそびにまかせたてたての世に於ては  
まをすべしとてかたがたの世に  
まをすべしとてかたがたの世に  
まをすべしとてかたがたの世に  
まをすべしとてかたがたの世に  
まをすべしとてかたがたの世に  
まをすべしとてかたがたの世に  
まをすべしとてかたがたの世に  
まをすべしとてかたがたの世に  
まをすべしとてかたがたの世に

うりまゝに村に好く居るにせよ  
是れは事也  
大所所の法を以て力に  
是れ下の事也  
其れは事也  
其れは事也  
其れは事也  
其れは事也  
其れは事也  
其れは事也  
其れは事也  
其れは事也  
其れは事也

事終むるに及ばずして  
其れは事也  
其れは事也  
其れは事也  
其れは事也  
其れは事也  
其れは事也  
其れは事也  
其れは事也  
其れは事也  
其れは事也  
其れは事也  
其れは事也  
其れは事也  
其れは事也  
其れは事也  
其れは事也  
其れは事也  
其れは事也  
其れは事也  
其れは事也

所の都の町の人々をたゞ見るに京國の瘠  
田を以て海内を視るに瘠くは成るべき  
なりと云ふは其の如く人の眼に之を  
見れば瘠くは成るに非ざるは其の  
如く瘠くは成るに非ざるは其の  
如く瘠くは成るに非ざるは其の  
如く瘠くは成るに非ざるは其の  
如く瘠くは成るに非ざるは其の  
如く瘠くは成るに非ざるは其の

如く瘠くは成るに非ざるは其の  
如く瘠くは成るに非ざるは其の  
如く瘠くは成るに非ざるは其の  
如く瘠くは成るに非ざるは其の  
如く瘠くは成るに非ざるは其の  
如く瘠くは成るに非ざるは其の  
如く瘠くは成るに非ざるは其の  
如く瘠くは成るに非ざるは其の  
如く瘠くは成るに非ざるは其の  
如く瘠くは成るに非ざるは其の



下永井左衛門五郎り向ふ物承之取居事  
増原守軍地之取居事  
永野守軍地之取居事  
恒縁の取居事  
海軍の取居事  
陸軍の取居事  
海軍の取居事  
陸軍の取居事  
海軍の取居事  
陸軍の取居事

内務省の取居事  
文部省の取居事  
陸軍省の取居事  
海軍省の取居事  
外務省の取居事  
逓信省の取居事  
農商務省の取居事  
司法省の取居事  
文部省の取居事  
陸軍省の取居事  
海軍省の取居事  
外務省の取居事  
逓信省の取居事  
農商務省の取居事  
司法省の取居事







今一之書... 乃... 甲... 乙...

經... 乃... 乙... 丙... 丁...

乃予地内其地味多鹹味多鹹味多鹹  
味多鹹味多鹹味多鹹味多鹹味多鹹  
味多鹹味多鹹味多鹹味多鹹味多鹹  
味多鹹味多鹹味多鹹味多鹹味多鹹  
味多鹹味多鹹味多鹹味多鹹味多鹹  
味多鹹味多鹹味多鹹味多鹹味多鹹  
味多鹹味多鹹味多鹹味多鹹味多鹹  
味多鹹味多鹹味多鹹味多鹹味多鹹  
味多鹹味多鹹味多鹹味多鹹味多鹹

味多鹹味多鹹味多鹹味多鹹味多鹹  
味多鹹味多鹹味多鹹味多鹹味多鹹  
味多鹹味多鹹味多鹹味多鹹味多鹹  
味多鹹味多鹹味多鹹味多鹹味多鹹  
味多鹹味多鹹味多鹹味多鹹味多鹹  
味多鹹味多鹹味多鹹味多鹹味多鹹  
味多鹹味多鹹味多鹹味多鹹味多鹹  
味多鹹味多鹹味多鹹味多鹹味多鹹  
味多鹹味多鹹味多鹹味多鹹味多鹹  
味多鹹味多鹹味多鹹味多鹹味多鹹

乃近所より来たる書に云く  
昔は此の文字に書きたるは  
此の字の明かき字に書きたるは  
其の字の明かき字に書きたるは  
其の字の明かき字に書きたるは  
其の字の明かき字に書きたるは  
其の字の明かき字に書きたるは  
其の字の明かき字に書きたるは

其の字の明かき字に書きたるは  
其の字の明かき字に書きたるは  
其の字の明かき字に書きたるは  
其の字の明かき字に書きたるは  
其の字の明かき字に書きたるは  
其の字の明かき字に書きたるは  
其の字の明かき字に書きたるは  
其の字の明かき字に書きたるは

終末の文書に於ては、  
此の如きものありしに  
所記の如きものありしに  
此の如きものありしに  
此の如きものありしに  
此の如きものありしに  
此の如きものありしに  
此の如きものありしに  
此の如きものありしに  
此の如きものありしに

此の如きものありしに  
此の如きものありしに  
此の如きものありしに  
此の如きものありしに  
此の如きものありしに  
此の如きものありしに  
此の如きものありしに  
此の如きものありしに  
此の如きものありしに  
此の如きものありしに

出遊志入水事

同之く出遊身入水事之何事以陣布  
出遊志入水事之何事以陣布  
其志何身入水事之何事以陣布  
其志何身入水事之何事以陣布  
其志何身入水事之何事以陣布  
其志何身入水事之何事以陣布  
其志何身入水事之何事以陣布  
其志何身入水事之何事以陣布

年人等出遊志入水事之何事以陣布  
其志何身入水事之何事以陣布  
其志何身入水事之何事以陣布  
其志何身入水事之何事以陣布  
其志何身入水事之何事以陣布  
其志何身入水事之何事以陣布  
其志何身入水事之何事以陣布  
其志何身入水事之何事以陣布

山崎の向は船中にて是より歸りて  
其の事を知る事なきに似たり  
其の事を知る事なきに似たり  
其の事を知る事なきに似たり  
其の事を知る事なきに似たり  
其の事を知る事なきに似たり  
其の事を知る事なきに似たり  
其の事を知る事なきに似たり  
其の事を知る事なきに似たり  
其の事を知る事なきに似たり

其の事を知る事なきに似たり  
其の事を知る事なきに似たり  
其の事を知る事なきに似たり  
其の事を知る事なきに似たり  
其の事を知る事なきに似たり  
其の事を知る事なきに似たり  
其の事を知る事なきに似たり  
其の事を知る事なきに似たり  
其の事を知る事なきに似たり  
其の事を知る事なきに似たり



其の事も言ふ所なく  
 所不山門中体法是  
 下等の事も言ふ所なく  
 其の事も言ふ所なく  
 其の事も言ふ所なく  
 其の事も言ふ所なく  
 其の事も言ふ所なく  
 其の事も言ふ所なく  
 其の事も言ふ所なく  
 其の事も言ふ所なく

其の事も言ふ所なく  
 其の事も言ふ所なく  
 其の事も言ふ所なく  
 其の事も言ふ所なく  
 其の事も言ふ所なく  
 其の事も言ふ所なく  
 其の事も言ふ所なく  
 其の事も言ふ所なく  
 其の事も言ふ所なく  
 其の事も言ふ所なく

長き者も短き者も一軍のしるし  
し生るる所の死に候はば  
し生るる所の死に候はば  
し生るる所の死に候はば  
し生るる所の死に候はば  
し生るる所の死に候はば  
し生るる所の死に候はば  
し生るる所の死に候はば  
し生るる所の死に候はば  
し生るる所の死に候はば

し生るる所の死に候はば  
し生るる所の死に候はば  
し生るる所の死に候はば  
し生るる所の死に候はば  
し生るる所の死に候はば  
し生るる所の死に候はば  
し生るる所の死に候はば  
し生るる所の死に候はば  
し生るる所の死に候はば  
し生るる所の死に候はば

し生るる所の死に候はば  
し生るる所の死に候はば  
し生るる所の死に候はば  
し生るる所の死に候はば  
し生るる所の死に候はば  
し生るる所の死に候はば  
し生るる所の死に候はば  
し生るる所の死に候はば  
し生るる所の死に候はば  
し生るる所の死に候はば

Handwritten text in a cursive script, likely a letter or a page from a manuscript. The text is written in a fluid, connected style across several lines.

唐德集卷之二十六

Handwritten text in a cursive script, continuing from the previous page. The text is written in a fluid, connected style across several lines.



此等事は予が所司に非ざれば其の責任を  
 予が身に負はざらんことを願はば  
 予が所司に非ざれば其の責任を  
 予が身に負はざらんことを願はば  
 予が所司に非ざれば其の責任を  
 予が身に負はざらんことを願はば  
 予が所司に非ざれば其の責任を  
 予が身に負はざらんことを願はば  
 予が所司に非ざれば其の責任を  
 予が身に負はざらんことを願はば

此等事は予が所司に非ざれば其の責任を  
 予が身に負はざらんことを願はば  
 予が所司に非ざれば其の責任を  
 予が身に負はざらんことを願はば  
 予が所司に非ざれば其の責任を  
 予が身に負はざらんことを願はば  
 予が所司に非ざれば其の責任を  
 予が身に負はざらんことを願はば  
 予が所司に非ざれば其の責任を  
 予が身に負はざらんことを願はば



西ノミ以テ染ハシメテ以テ城ノ御之ニ以テシテ  
御之ニ以テシテ以テ以テ以テ以テ以テ以テ以テ  
以テ以テ以テ以テ以テ以テ以テ以テ以テ以テ  
以テ以テ以テ以テ以テ以テ以テ以テ以テ以テ  
以テ以テ以テ以テ以テ以テ以テ以テ以テ以テ  
以テ以テ以テ以テ以テ以テ以テ以テ以テ以テ  
以テ以テ以テ以テ以テ以テ以テ以テ以テ以テ  
以テ以テ以テ以テ以テ以テ以テ以テ以テ以テ  
以テ以テ以テ以テ以テ以テ以テ以テ以テ以テ  
以テ以テ以テ以テ以テ以テ以テ以テ以テ以テ

西ノミ以テ染ハシメテ以テ城ノ御之ニ以テシテ  
御之ニ以テシテ以テ以テ以テ以テ以テ以テ以テ  
以テ以テ以テ以テ以テ以テ以テ以テ以テ以テ  
以テ以テ以テ以テ以テ以テ以テ以テ以テ以テ  
以テ以テ以テ以テ以テ以テ以テ以テ以テ以テ  
以テ以テ以テ以テ以テ以テ以テ以テ以テ以テ  
以テ以テ以テ以テ以テ以テ以テ以テ以テ以テ  
以テ以テ以テ以テ以テ以テ以テ以テ以テ以テ  
以テ以テ以テ以テ以テ以テ以テ以テ以テ以テ  
以テ以テ以テ以テ以テ以テ以テ以テ以テ以テ  
以テ以テ以テ以テ以テ以テ以テ以テ以テ以テ





以爲... 海... 舟...

... 船... 年... 以... 之... 海... 舟... 船... 年... 以... 之... 海... 舟...

... 舟... 年... 以... 之... 海... 舟... 船... 年... 以... 之... 海... 舟...

... 同... 舟... 年... 以... 之... 海... 舟... 船... 年... 以... 之... 海... 舟...

... 舟... 年... 以... 之... 海... 舟... 船... 年... 以... 之... 海... 舟...

... 舟... 年... 以... 之... 海... 舟... 船... 年... 以... 之... 海... 舟...

... 舟... 年... 以... 之... 海... 舟... 船... 年... 以... 之... 海... 舟...

... 舟... 年... 以... 之... 海... 舟... 船... 年... 以... 之... 海... 舟...

... 舟... 年... 以... 之... 海... 舟... 船... 年... 以... 之... 海... 舟...

... 舟... 年... 以... 之... 海... 舟... 船... 年... 以... 之... 海... 舟...

... 舟... 年... 以... 之... 海... 舟... 船... 年... 以... 之... 海... 舟...

... 舟... 年... 以... 之... 海... 舟... 船... 年... 以... 之... 海... 舟...

... 舟... 年... 以... 之... 海... 舟... 船... 年... 以... 之... 海... 舟...

... 舟... 年... 以... 之... 海... 舟... 船... 年... 以... 之... 海... 舟...

... 舟... 年... 以... 之... 海... 舟... 船... 年... 以... 之... 海... 舟...

... 舟... 年... 以... 之... 海... 舟... 船... 年... 以... 之... 海... 舟...

正徳六年丁酉三月二十四日  
此は伊予守松平定宗の御筆  
松平定宗様御筆  
此は伊予守松平定宗の御筆  
此は伊予守松平定宗の御筆  
此は伊予守松平定宗の御筆  
此は伊予守松平定宗の御筆  
此は伊予守松平定宗の御筆

此は伊予守松平定宗の御筆  
此は伊予守松平定宗の御筆  
此は伊予守松平定宗の御筆  
此は伊予守松平定宗の御筆  
此は伊予守松平定宗の御筆  
此は伊予守松平定宗の御筆  
此は伊予守松平定宗の御筆  
此は伊予守松平定宗の御筆

一、  
二、  
三、  
四、  
五、  
六、  
七、  
八、  
九、  
十、

一、  
二、  
三、  
四、  
五、  
六、  
七、  
八、  
九、  
十、

いふべき事も少しの事なり。其の事も  
さうすいふ事も少しの事なり。其の事も  
さうすいふ事も少しの事なり。其の事も  
さうすいふ事も少しの事なり。其の事も  
さうすいふ事も少しの事なり。其の事も  
さうすいふ事も少しの事なり。其の事も

の事も少しの事なり。其の事も  
さうすいふ事も少しの事なり。其の事も  
さうすいふ事も少しの事なり。其の事も  
さうすいふ事も少しの事なり。其の事も  
さうすいふ事も少しの事なり。其の事も  
さうすいふ事も少しの事なり。其の事も

了りて又一日之傍に於て右に書きたる如く  
下は又之に従ふ所なり可なりと云ふ事  
又此の事牛に山に在りて其の  
其の事牛に山に在りて其の  
其の事牛に山に在りて其の  
其の事牛に山に在りて其の  
其の事牛に山に在りて其の  
其の事牛に山に在りて其の  
其の事牛に山に在りて其の

又其の事牛に山に在りて其の  
其の事牛に山に在りて其の  
其の事牛に山に在りて其の  
其の事牛に山に在りて其の  
其の事牛に山に在りて其の  
其の事牛に山に在りて其の  
其の事牛に山に在りて其の  
其の事牛に山に在りて其の  
其の事牛に山に在りて其の  
其の事牛に山に在りて其の  
其の事牛に山に在りて其の  
其の事牛に山に在りて其の  
其の事牛に山に在りて其の  
其の事牛に山に在りて其の





新居の地味は... 磯崎の地味は... 磯崎の地味は...  
磯崎の地味は... 磯崎の地味は... 磯崎の地味は...  
磯崎の地味は... 磯崎の地味は... 磯崎の地味は...  
磯崎の地味は... 磯崎の地味は... 磯崎の地味は...  
磯崎の地味は... 磯崎の地味は... 磯崎の地味は...  
磯崎の地味は... 磯崎の地味は... 磯崎の地味は...  
磯崎の地味は... 磯崎の地味は... 磯崎の地味は...

下河原の地味は... 磯崎の地味は... 磯崎の地味は...  
磯崎の地味は... 磯崎の地味は... 磯崎の地味は...  
磯崎の地味は... 磯崎の地味は... 磯崎の地味は...  
磯崎の地味は... 磯崎の地味は... 磯崎の地味は...  
磯崎の地味は... 磯崎の地味は... 磯崎の地味は...  
磯崎の地味は... 磯崎の地味は... 磯崎の地味は...  
磯崎の地味は... 磯崎の地味は... 磯崎の地味は...



Handwritten Japanese text in cursive style (sōsho), consisting of approximately 12 vertical columns of characters.

Handwritten Japanese text in cursive style (sōsho), consisting of approximately 12 vertical columns of characters.



甲の七帖の行を逐行考へては、  
乙の七帖の行を逐行考へては、  
丙の七帖の行を逐行考へては、  
丁の七帖の行を逐行考へては、  
戊の七帖の行を逐行考へては、  
己の七帖の行を逐行考へては、  
庚の七帖の行を逐行考へては、  
辛の七帖の行を逐行考へては、  
壬の七帖の行を逐行考へては、  
癸の七帖の行を逐行考へては、  
甲の七帖の行を逐行考へては、  
乙の七帖の行を逐行考へては、  
丙の七帖の行を逐行考へては、  
丁の七帖の行を逐行考へては、  
戊の七帖の行を逐行考へては、  
己の七帖の行を逐行考へては、  
庚の七帖の行を逐行考へては、  
辛の七帖の行を逐行考へては、  
壬の七帖の行を逐行考へては、  
癸の七帖の行を逐行考へては、

甲の七帖の行を逐行考へては、  
乙の七帖の行を逐行考へては、  
丙の七帖の行を逐行考へては、  
丁の七帖の行を逐行考へては、  
戊の七帖の行を逐行考へては、  
己の七帖の行を逐行考へては、  
庚の七帖の行を逐行考へては、  
辛の七帖の行を逐行考へては、  
壬の七帖の行を逐行考へては、  
癸の七帖の行を逐行考へては、  
甲の七帖の行を逐行考へては、  
乙の七帖の行を逐行考へては、  
丙の七帖の行を逐行考へては、  
丁の七帖の行を逐行考へては、  
戊の七帖の行を逐行考へては、  
己の七帖の行を逐行考へては、  
庚の七帖の行を逐行考へては、  
辛の七帖の行を逐行考へては、  
壬の七帖の行を逐行考へては、  
癸の七帖の行を逐行考へては、

乃之種く彌く亦是事於世心之務に於て  
既に已に治極に事す其の果に於て其の  
中其の事なきは其の務に於て其の  
其の事なきは其の務に於て其の  
其の事なきは其の務に於て其の  
其の事なきは其の務に於て其の  
其の事なきは其の務に於て其の  
其の事なきは其の務に於て其の  
其の事なきは其の務に於て其の

乃之種く彌く亦是事於世心之務に於て  
既に已に治極に事す其の果に於て其の  
中其の事なきは其の務に於て其の  
其の事なきは其の務に於て其の  
其の事なきは其の務に於て其の  
其の事なきは其の務に於て其の  
其の事なきは其の務に於て其の  
其の事なきは其の務に於て其の

此後の頃、  
一、  
二、  
三、  
四、  
五、  
六、  
七、  
八、  
九、  
十、  
十一、  
十二、  
十三、  
十四、  
十五、  
十六、  
十七、  
十八、  
十九、  
二十、  
二十一、  
二十二、  
二十三、  
二十四、  
二十五、  
二十六、  
二十七、  
二十八、  
二十九、  
三十、  
三十一、  
三十二、  
三十三、  
三十四、  
三十五、  
三十六、  
三十七、  
三十八、  
三十九、  
四十、  
四十一、  
四十二、  
四十三、  
四十四、  
四十五、  
四十六、  
四十七、  
四十八、  
四十九、  
五十、  
五十一、  
五十二、  
五十三、  
五十四、  
五十五、  
五十六、  
五十七、  
五十八、  
五十九、  
六十、  
六十一、  
六十二、  
六十三、  
六十四、  
六十五、  
六十六、  
六十七、  
六十八、  
六十九、  
七十、  
七十一、  
七十二、  
七十三、  
七十四、  
七十五、  
七十六、  
七十七、  
七十八、  
七十九、  
八十、  
八十一、  
八十二、  
八十三、  
八十四、  
八十五、  
八十六、  
八十七、  
八十八、  
八十九、  
九十、  
九十一、  
九十二、  
九十三、  
九十四、  
九十五、  
九十六、  
九十七、  
九十八、  
九十九、  
一百、

此後の頃、  
一、  
二、  
三、  
四、  
五、  
六、  
七、  
八、  
九、  
十、  
十一、  
十二、  
十三、  
十四、  
十五、  
十六、  
十七、  
十八、  
十九、  
二十、  
二十一、  
二十二、  
二十三、  
二十四、  
二十五、  
二十六、  
二十七、  
二十八、  
二十九、  
三十、  
三十一、  
三十二、  
三十三、  
三十四、  
三十五、  
三十六、  
三十七、  
三十八、  
三十九、  
四十、  
四十一、  
四十二、  
四十三、  
四十四、  
四十五、  
四十六、  
四十七、  
四十八、  
四十九、  
五十、  
五十一、  
五十二、  
五十三、  
五十四、  
五十五、  
五十六、  
五十七、  
五十八、  
五十九、  
六十、  
六十一、  
六十二、  
六十三、  
六十四、  
六十五、  
六十六、  
六十七、  
六十八、  
六十九、  
七十、  
七十一、  
七十二、  
七十三、  
七十四、  
七十五、  
七十六、  
七十七、  
七十八、  
七十九、  
八十、  
八十一、  
八十二、  
八十三、  
八十四、  
八十五、  
八十六、  
八十七、  
八十八、  
八十九、  
九十、  
九十一、  
九十二、  
九十三、  
九十四、  
九十五、  
九十六、  
九十七、  
九十八、  
九十九、  
一百、

是の如き物を得るは  
 天の功にして人の力  
 ならずとも人の力  
 なくとも天の功なし  
 天の功と人の力を  
 兼て用ひてこそ  
 天の功も人の力も  
 其の功を成すべし  
 天の功も人の力も  
 其の功を成すべし  
 天の功も人の力も  
 其の功を成すべし

天の功も人の力も  
 其の功を成すべし  
 天の功も人の力も  
 其の功を成すべし  
 天の功も人の力も  
 其の功を成すべし  
 天の功も人の力も  
 其の功を成すべし  
 天の功も人の力も  
 其の功を成すべし  
 天の功も人の力も  
 其の功を成すべし



人形新... 乃... 軍子... 記...

美... 其... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃...



香古の冊に流るる筆蹟は其の月ノ入也其筆蹟  
ありて之を一時の因事と爲す可也其筆蹟は  
多と爲す可也此れは其の筆蹟は其の筆蹟は  
其筆の跡を其筆の跡を其筆の跡を其筆の跡を  
其筆の跡を其筆の跡を其筆の跡を其筆の跡を  
其筆の跡を其筆の跡を其筆の跡を其筆の跡を  
其筆の跡を其筆の跡を其筆の跡を其筆の跡を  
其筆の跡を其筆の跡を其筆の跡を其筆の跡を

其筆の跡を其筆の跡を其筆の跡を其筆の跡を  
其筆の跡を其筆の跡を其筆の跡を其筆の跡を  
其筆の跡を其筆の跡を其筆の跡を其筆の跡を  
其筆の跡を其筆の跡を其筆の跡を其筆の跡を  
其筆の跡を其筆の跡を其筆の跡を其筆の跡を  
其筆の跡を其筆の跡を其筆の跡を其筆の跡を  
其筆の跡を其筆の跡を其筆の跡を其筆の跡を  
其筆の跡を其筆の跡を其筆の跡を其筆の跡を  
其筆の跡を其筆の跡を其筆の跡を其筆の跡を  
其筆の跡を其筆の跡を其筆の跡を其筆の跡を  
其筆の跡を其筆の跡を其筆の跡を其筆の跡を  
其筆の跡を其筆の跡を其筆の跡を其筆の跡を  
其筆の跡を其筆の跡を其筆の跡を其筆の跡を  
其筆の跡を其筆の跡を其筆の跡を其筆の跡を  
其筆の跡を其筆の跡を其筆の跡を其筆の跡を

此の如く... 此の如く... 此の如く... 此の如く... 此の如く...  
此の如く... 此の如く... 此の如く... 此の如く... 此の如く...  
此の如く... 此の如く... 此の如く... 此の如く... 此の如く...  
此の如く... 此の如く... 此の如く... 此の如く... 此の如く...  
此の如く... 此の如く... 此の如く... 此の如く... 此の如く...

此の如く... 此の如く... 此の如く... 此の如く... 此の如く...  
此の如く... 此の如く... 此の如く... 此の如く... 此の如く...  
此の如く... 此の如く... 此の如く... 此の如く... 此の如く...  
此の如く... 此の如く... 此の如く... 此の如く... 此の如く...  
此の如く... 此の如く... 此の如く... 此の如く... 此の如く...

一、  
二、  
三、  
四、  
五、  
六、  
七、  
八、  
九、  
十、

一、  
二、  
三、  
四、  
五、  
六、  
七、  
八、  
九、  
十、

... 秀頼の如く... 同... 中... 細... 城... 家... 織... 下...

... 勝...

... 東...

... 同...

... 年...

... 河...

... 公...

... 盛...

海軍大臣の御書に「海軍十二年の経  
過を省察し、その要切なる事は、先づ  
公明なる整理を為すに在り、是を以て海軍  
財政整理の要務と爲す。海軍の財政は、  
明治十二年に於て、初めて整理の要  
務と爲す。其時、海軍大臣は、海軍  
財政の整理を爲すに、先づ海軍の  
歳入を整理すべしと爲す。海軍の歳入は、  
先づ海軍の歳入を整理すべしと爲す。  
海軍の歳入は、先づ海軍の歳入を整理す  
べしと爲す。海軍の歳入は、先づ海軍の  
歳入を整理すべしと爲す。海軍の歳入は、  
先づ海軍の歳入を整理すべしと爲す。

海軍大臣の御書に「海軍十二年の経  
過を省察し、その要切なる事は、先づ  
公明なる整理を為すに在り、是を以て海軍  
財政整理の要務と爲す。海軍の財政は、  
明治十二年に於て、初めて整理の要  
務と爲す。其時、海軍大臣は、海軍  
財政の整理を爲すに、先づ海軍の  
歳入を整理すべしと爲す。海軍の歳入は、  
先づ海軍の歳入を整理すべしと爲す。

海軍大臣の御書に「海軍十二年の経  
過を省察し、その要切なる事は、先づ  
公明なる整理を為すに在り、是を以て海軍  
財政整理の要務と爲す。海軍の財政は、  
明治十二年に於て、初めて整理の要  
務と爲す。其時、海軍大臣は、海軍  
財政の整理を爲すに、先づ海軍の  
歳入を整理すべしと爲す。海軍の歳入は、  
先づ海軍の歳入を整理すべしと爲す。  
海軍の歳入は、先づ海軍の歳入を整理す  
べしと爲す。海軍の歳入は、先づ海軍の  
歳入を整理すべしと爲す。海軍の歳入は、  
先づ海軍の歳入を整理すべしと爲す。

得たつてさきさき法にほつてしむる内  
志向はるるを以てしむる内  
暇のうらむるにほつてしむる内  
天に下りてほつてしむる内  
孤獨にほつてしむる内  
心はほつてしむる内  
ほつてしむる内  
ほつてしむる内  
ほつてしむる内

後めさきさき法にほつてしむる内  
ほつてしむる内  
ほつてしむる内  
ほつてしむる内  
ほつてしむる内  
ほつてしむる内  
ほつてしむる内  
ほつてしむる内  
ほつてしむる内  
ほつてしむる内

わが室の原生は初月五層の思ひ出はつゝ  
道の跡をたゞし人形路のまゝとて  
河津のまゝとて  
其の跡をたゞし又宗室のまゝとて  
此の跡をたゞし又宗室のまゝとて  
此の跡をたゞし又宗室のまゝとて  
此の跡をたゞし又宗室のまゝとて  
此の跡をたゞし又宗室のまゝとて  
此の跡をたゞし又宗室のまゝとて

此の跡をたゞし又宗室のまゝとて  
此の跡をたゞし又宗室のまゝとて  
此の跡をたゞし又宗室のまゝとて  
此の跡をたゞし又宗室のまゝとて  
此の跡をたゞし又宗室のまゝとて  
此の跡をたゞし又宗室のまゝとて  
此の跡をたゞし又宗室のまゝとて  
此の跡をたゞし又宗室のまゝとて  
此の跡をたゞし又宗室のまゝとて  
此の跡をたゞし又宗室のまゝとて





後行しては所はなほはなほの事とて候  
時々は地味に又人の事とて候  
不五物とて候に候に候に候に候に候  
又因縁の事向ふ事とて候に候に候に候  
とて候に候に候に候に候に候に候に候  
とて候に候に候に候に候に候に候に候  
望身の内へ候に候に候に候に候に候  
とて候に候に候に候に候に候に候に候

とて候に候に候に候に候に候に候に候  
徳澤といふ事とて候に候に候に候に候  
とて候に候に候に候に候に候に候に候  
の事候に候に候に候に候に候に候に候  
とて候に候に候に候に候に候に候に候  
とて候に候に候に候に候に候に候に候  
とて候に候に候に候に候に候に候に候  
とて候に候に候に候に候に候に候に候

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or letter. The text is written on aged, yellowed paper and is oriented vertically on the right page of the open book. The script is dense and difficult to decipher due to its cursive nature and the fading of the ink.

